十二年長州泰雲院、文化三年越前萬慶寺、七年龍泉寺、十三年越中光嚴寺に轉住し、文政四年十月大乘寺に入り開堂演法、一住三年にして越前長禪寺を創立し、文政六年二月九日病を得て寂した。

テンギョウジヤマ　天行寺山　鹿島郡笠師の部落から南方にある山。高さ一三六米。地質第三紀層。

テングイシ　天狗石　能美郡岩本で産する石材。帶草色、又は灰白色を呈し、質全く粗面で硬い。

テングカベ　天狗壁　→ゴザイハ　御座岩。

テングザカ　天狗坂　金澤油車の牛右衞門橋へ出る坂路であるが、その名の由來は不明である。

テングノツメ　天狗の爪　能登では所々に天狗の爪といふものを出す。これは小形の鮫の齒の化石で、多く暗綠色を呈し、光澤がある。その大形にして長さ十糎許のものを馬の角と稱する。共に第三紀層の古い砂岩から出るやうである。天文日記廿二年閏正月二日に、『自溫井云々天狗爪三來。』と記される。

テングノツメトギイシ　天狗の爪硏石　鳳至郡甲村に在る。能登誌に、『甲山の麓に、天狗の爪硏石とて、朝毎に物を硏ぎし跡此石にあり。』とある。

テングバシ　天狗橋　石川郡鶴來の西部と能美郡岩本とを連絡する所に手取川を横ぎつて架けられてゐる。橋名は、橋から上流の岩本方面の河岸が、斧を以て削られたやうな絶壁であり、それを天狗壁と呼ばれたのに基づくものである。最初の橋は明治三十六年二月の竣功であつた。

テングマツリ　天狗祭　能登誌に、『時國の劔山より、大川の天臣濱へ、毎歲八月十四日の夜松明數百顯る。近きわたりより見るに、誠に夥敷見ゆ。俗に狐の嫁取とも、又天狗祭ともいへり。』と見える。時國・大川共に鳳至郡である。

テンケイゼンチョウ　天桂禪長　曹洞宗の僧。能美郡の人。幼にして祝髮し、廿歲越前龍泉寺に入り、永正十四年甲斐慈照寺の眞翁宗見に衣法を附せられた。後武田信虎その府内に大泉寺を創して禪長を開山たらしめたが、大永四年九月廿九日六十二歲を以て示寂。

テンケンノウレヘ　點檢の憂　文政八年七月加賀藩は御召米を行うて、之を大坂に輸出し、利鞘の收得を謀らうとしたが、秋冬海上の漕運に堪へぬ間、この米穀切手を金融業者たる銀仲（ギンズライ）に質入して銀子を借上げたので、翌九年春に至つても、先づその質權を解除せしめた後でなければ現穀を船積するを得なかつた。因つて藩は銀仲を欺いて切手を回收し、以て米穀を輸出した後、銀仲に五ヶ年を期して借銀の仕拂を約し、而して最初の一年のみ之を實行して餘は曖昧の裡に葬つた。藩が先に銀仲に與へた切手には點檢の印が捺してあつたので、時人これを點檢の憂といつた。この際金澤袋町越中屋次左衞門・片町宮腰屋久右衞門・石川郡粟崎木屋次助等は、豫め當局から機密を窺ひ知り、債權を他に讓與してその憂を免れたので、世人はその所爲を憎み、多數屋前に集つて暴擧を行はんとした。

テンザカ　天坂　鳳至郡上町野郷に屬する部落。

テンサキ　天崎　江沼郡小鹽の北方海角で、高さ三〇米許の斷崖をなしてゐる。

テンジイン　慈霑院　富山藩主第五代前田利幸の法號。詳しくは慈慈院德風日顯大居士。

テンジユイン　天珠院　加賀藩主第九代前田重靖の法號。詳しくは天珠院嘯月仁勇大居士。

テンジユコウカシユウ　天珠公歌集　一册。前田重靖が幼少の頃から詠じた歌を集めたものである。

テンジユコウネンプ　天珠公年譜　一册。前田重靖が享保二十年十一月誕生してから、寶曆三年十月卒去までの年譜である。

テンシユダイ　天守臺　金澤城本丸と東丸との堺にあつた。創立の年曆は明らかでないが、文祿二年前田利常が天守下の局で生誕したと三藩記にあるから、その前に建てられてゐたものである。慶長七年十一月晦日夜亥時雷火によつて燒失し、その後舊臺上に三階櫓を立てたが、天守は復舊しなかつた。

テンシユヤマジヨウ・天主山城　鹿島郡府中に在つたもので、城址は不明であるが、上條織部が玆に居たといふ。

テンジヨウカベ　天井壁　能美郡舊市ノ瀨溫泉から白山への登路中、剃刀窟を越え、標高一五五〇米許に在る嶮路である。右方は千仞の深谷で、角閃安山岩剝落し、爲に絶壁を削立せしめる。こゝでは濶葉樹が殆ど盡きんとする所なので、特に植物學者の注意を惹く。

テンシヨウジ　傳證寺　珠洲郡小木に在つて、眞宗東派に屬する。

テンシヨウロク　天正錄　一册。著者不詳。天正七年前田利家の生誕から、慶長十九年利常の時代までの記錄で、麟鳳龜龍の四部に分けてある。

テンジンガハラ　天神川原　鹿島郡矢田郷に屬する部落。

テンジンザカ　天神坂　金澤天神町から小立野與力町へ通ずる道路で、もと男坂・女坂等の三坂があり、惣名を天神坂と呼んだ。

テンジンダニ　天神谷　鳳至郡穴水郷之內大屋庄に屬する部落。天文元年七月諸橋六郷南北棟數注文には天神が谷と記してある。邑名は天神社があるによる。

テンジンダニガハ　天神谷川　鹿島郡四柳領の大波谷から流出し、同領で邑知潟に入る。流程二粁許。

テンジンドウ　天神堂　藩政の頃、歲末から正月にかけて男兒の飾物に天神堂があつた。神殿・鳥居・玉垣等を小さく木で造り、その中に土偶の天神・隨身・狛犬・太鼓・神主・燈籠等を配したものである。藩侯の祖先が菅公であると信ぜられた爲に初つたものであらう。

テンジンナガモチ　天神長持　前田家重代の利器に大傳太の太刀と小鍛冶の長刀とがあつたが、藩侯の江戸に參勤する際は、守護の爲代る々々齎す例であつた。天神長持とは之を納めた唐櫃をいひ、道中非常に鄭重に取扱ひ、決して地上に置くことを許さなかつた。

テンジンバヤシ　天神林　金澤田井天神卽ち今の椿原神社の後方なる山林をいひ、椿原堡の跡である。

テンジンバヤシ　天神林　羽咋郡東間なる手速比咩神社の神林をいふ。佐々成政が末森山を攻めた時、先陣吾妻野天神林に陣を取れば本陣は坪井山麓に據つて下營したといふも